ゴーヘッズ 速報

Goaheads

第14号　平成23年5月12日

一瞬の闇がゲームを決めた・・・

今後に繋がる後半の戦い・勢い！！

	1	2	3	4	5	6	7	R
S	0	1	0	0	0	0	0	1
G	0	0	0	0	0	1	0	1

5/12（土）東俣野公園野球場にて、東京サンタクロスとのVictriaトーナメントを戦った。結果は残念な内容に終わったが、今日のゲームはこれからのチームに大きな成果をもたらしたと思える内容であった。先発を任された林、2番手で上がった達脇も自分の仕事をきっちりこなし、非常にしびれるゲーム展開を演出した。序盤の打線は湿りがちだったが、後半は各人が出塁する意欲を見せ、ついにその機会を捉えた。6回先頭は智、７球粘った８球目を綺麗に左前に裁き、安打で出塁、その語相手投手のWPの間に２塁へ進塁、一番は倒れたが、瀧本に代わり打席に入ったのぶが死球により出塁、ベンチのムードはクライマックス状態、のぶがホームを踏めば、逆転に成功するからだ。しかし、３番が倒れ、場面は二死１・２塁、ここで前の打席に安打を放っている４番@こーすけが打席に入る。ベンチから彼に掛ける声に自身も奮起し、恐らく自身初であろう、６球を粘る、そして７球目に快音を響かせた。打球はライトの頭上を遥かに越えネットに直撃、この間に２塁から智がホームインし同点、一塁走者も三塁に進塁し、依然イケイケ状態は続く。続く５番木村に期待が膨らんだが初級をレフトに打ち上げ、結果７回を１：１で終え、サドンデスで残念ながら敗戦となった。サドンデスの内容は１死満塁からの攻撃、相手の攻撃はエンドランであったが、打者の空振りにサードから飛び出した走者をランダムプレーで挟んだが、送球を慌てた結果、相手走者に当たり、ボールはファールゾーンに点々。プレーは止まったかに見えたその瞬間、三塁走者は、がら空きのホームに進塁を目指した。しかし、ここは、こーすけのカバーリングにより、間一髪アウトにし、二死１・２塁に変わる。そして次打者に投じた３球目はセンターの守備位置に上がったフライであった。誰しもスリーアウトで交代かと思った瞬間、ボールと太陽が交錯し、捕球する事が出来ずに、失点を許してしまった。この回、結局２点を許し、２点を追う、最後の攻撃、哲也のやや浅いライトフライを達脇が賢明にホームインし、その差は１点、そして場面は先程決めたこーすけ、しかし、ここは相手投手が上手く抑えゲームセットとなった。今までのチームであったら、今日の粘りは無かったであろう。自分本位に打席に入り、チームを顧みず凡打を築いていたと思うが、今日は繋げる意識をメンバーで持ち、それを実践した結果が今日の内容に繋がったと思う。ただ、最後にタラレバを敢えて書くなら、二度のエンドラン失敗は痛かった。やはりエンドランのサインを出されたら、最低バットに当てよう。空振り・見逃しでは、みすみす相手にアウトをプレゼントする事になるから。それから打ったら走る事も忘れるな。二人の打者が勝手に判断し、行為を止めたのは、ベンチの士気も下がってしまう。結果は結果だが、段取り八部を忘れなければ、という今日の内容であった。